

第5節 国内外における ICT 機器・端末関連の動向

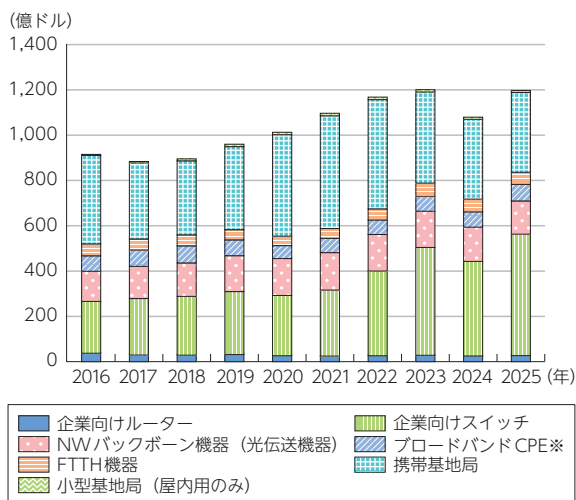
1 国内外の ICT 機器市場の動向

1 市場規模

世界のネットワーク機器の出荷額は、長期的に増加傾向であり、2025年は1,195億ドル（前年比10.9%増）となった（図表Ⅱ-1-5-1）。内訳をみると、携帯基地局と企業向けスイッチが中心となっている。

日本のネットワーク機器の生産額は、2000年代前半から減少傾向で推移していたが、2018年以降は緩やかに増加した。その後、再び減少に転じたが、2023年から増加し、2025年は6,945億円となった（図表Ⅱ-1-5-2）。内訳をみると、固定電話から携帯電話・IP電話への移行に伴って電話応用装置^{*1}、交換機などが減少しており、現在は無線応用装置^{*2}、搬送装置^{*3}及びその他の無線通信機器^{*4}の規模が大きい。また、基地局通信装置は増減の波が大きく、4G向けの投資が一巡した2016年以降は低迷が続いていたが、2020年から増加に転じた後に2022年以降は減少が続き、2025年は増加に転じた。IP通信に使用されるネットワーク接続機器^{*5}は2016年から400億円を割り込み、2024年以降は減少している。

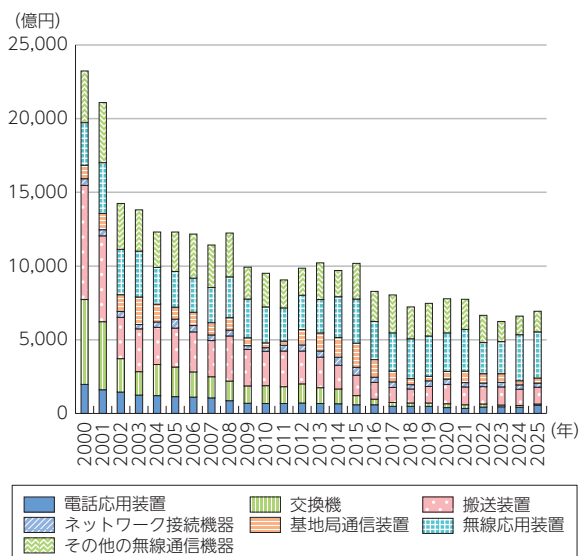
図表Ⅱ-1-5-1 世界のネットワーク機器出荷額の推移



※ xDSL（ADSL、VDSL、G.fast等）及びケーブルネットワークによりブロードバンド通信を行うための、顧客向け設備。

（出典）Omdia

図表Ⅱ-1-5-2 日本のネットワーク機器生産額の推移



（出典）経済産業省「生産動態統計調査機械統計編」^{*6}

2 機器別の市場動向

ア 5G基地局

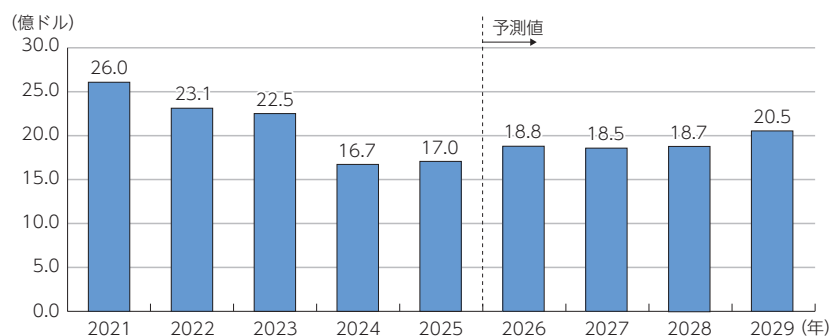
2025年の世界の5G基地局（マクロセル）の市場規模（出荷額）は277.8億ドル（前年比11.7%増）となり、日本では17億ドル（前年比2.0%増）となった（図表Ⅱ-1-5-3）。また、2025年の世界の5G基地局（マクロセル）のシェア（出荷額）は、首位がHuawei（35.9%）、2位がEricsson（25.6%）、

^{*1} ボタン電話装置、インターホン。
^{*2} 船舶用・航空用レーダー、無線位置測定装置、テレメータ・テレコントロールなど。
^{*3} デジタル伝送装置、電力線搬送装置、CATV搬送装置、光伝送装置など。
^{*4} パーソナル無線装置、アマチュア用通信装置、市民用トランシーバなど。
^{*5} ルーター、ハブ、ゲートウェイなど。
^{*6} <https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/seidou/index.html>

3位がNokia（17.3%）であった。このように、5G基地局（マクロセル）の市場（出荷額）では、海外の主要企業が高いシェアを占め、日本企業のシェアは低い状況にある。

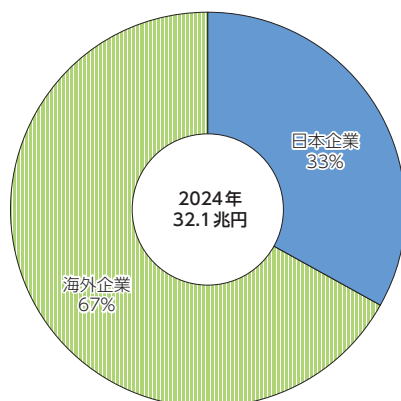
他方で、日本企業は、携帯基地局やスマートフォンなどに組み込まれている電子部品市場（売上高）では、2024年時点で世界の33%のシェアを占めるとの推計もあり、Beyond 5Gに向けた潜在的な競争力は有していると考えられる（図表Ⅱ-1-5-4）。

図表Ⅱ-1-5-3 日本の5G基地局（マクロセル）の市場規模（出荷額）



（出典）Omdia

図表Ⅱ-1-5-4 世界の電子部品市場（売上高）のシェア（2024年）



（出典）Omdia

関連データ

世界の5G基地局（マクロセル）の市場規模（出荷額）

出典：Omdia
URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/html/datashu.html#f00183>（データ集）



関連データ

世界の5G基地局（マクロセル）のシェア（出荷額）

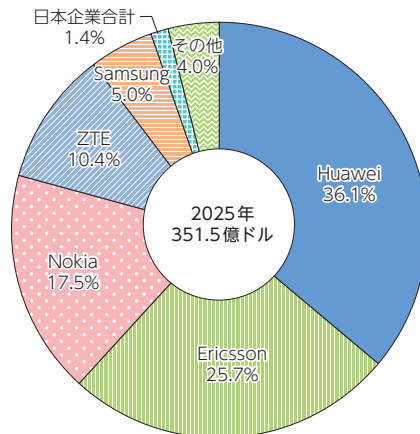
出典：Omdia
URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/html/datashu.html#f00184>（データ集）



イ マクロセル基地局（5G含む）

2025年の世界市場の出荷金額ベースのシェアは、首位がHuawei（36.1%）、2位がEricsson（25.7%）、3位がNokia（17.5%）となっており、日本企業は合計で1.4%を占めている（図表Ⅱ-1-5-5）。

図表Ⅱ-1-5-5 世界のマクロセル基地局市場のシェア（2025年・出荷額）



(出典) Omdia

ウ 企業向けルーター

2025年の世界市場の出荷金額ベースのシェアは、首位がCisco（63.3%）、2位がHuawei（11.7%）、3位がH3C（8.3%）となっている。

2025年の日本市場の出荷金額ベースのシェアは、首位がCisco（35.5%）、2位がYamaha（25.7%）、3位がNEC（24.1%）となっている。

関連データ 世界の企業向けルーター市場のシェア

出典：Omdia
URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/html/datashu.html#f00186>（データ集）



関連データ 日本の企業向けルーター市場のシェア

出典：Omdia
URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/html/datashu.html#f00187>（データ集）



2 国内外の ICT 端末市場の動向

1 市場規模

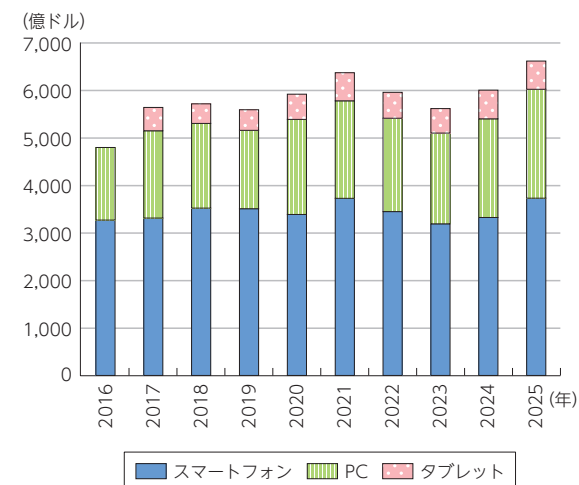
世界の情報端末の出荷額は、2025年は6,619億ドル（前年比10.2%増）となった（図表Ⅱ-1-5-6）。内訳をみると、スマートフォンとPCが中心となっている。

日本の情報端末の生産額は、2000年代に比べると大きく減少している。2020年以降は1兆円前後で横ばいの推移となっており、2025年は1兆1,323億円であった。内訳をみると、携帯電話・PHS^{*7}が2010年代初頭までは大きかったが、その後縮小し、現在はノート型PC、情報端末^{*8}が中心となっている（図表Ⅱ-1-5-7）。

^{*7} 2019年以降は、携帯電話・公衆用PHS端末の生産額は非公表となったため、陸上移動通信装置からその他の陸上移動通信装置を引いた値を使用している。また、2022年から陸上移動通信装置の生産額が非公表となったためゼロとしている。

^{*8} 外部記憶装置、プリンタ、モニターなど。情報キオスク端末装置は非公表の年があるため、それを除いた値を使用。

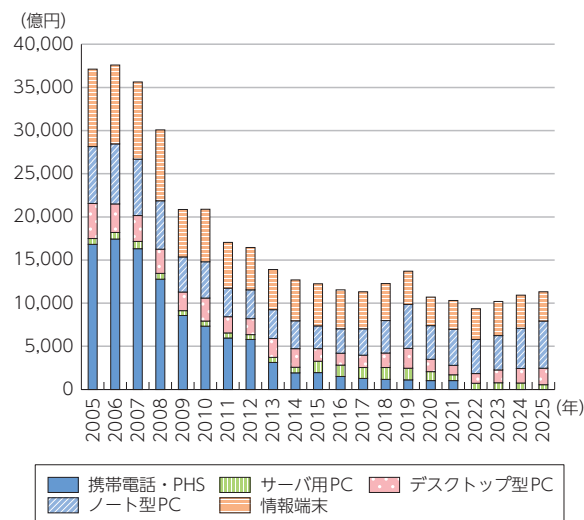
図表Ⅱ-1-5-6 世界の情報端末出荷額の推移



※ タブレットは2017年から集計

(出典) Omdia

図表Ⅱ-1-5-7 日本の情報端末生産額の推移



(出典) 経済産業省「生産動態統計調査機械統計編」*9

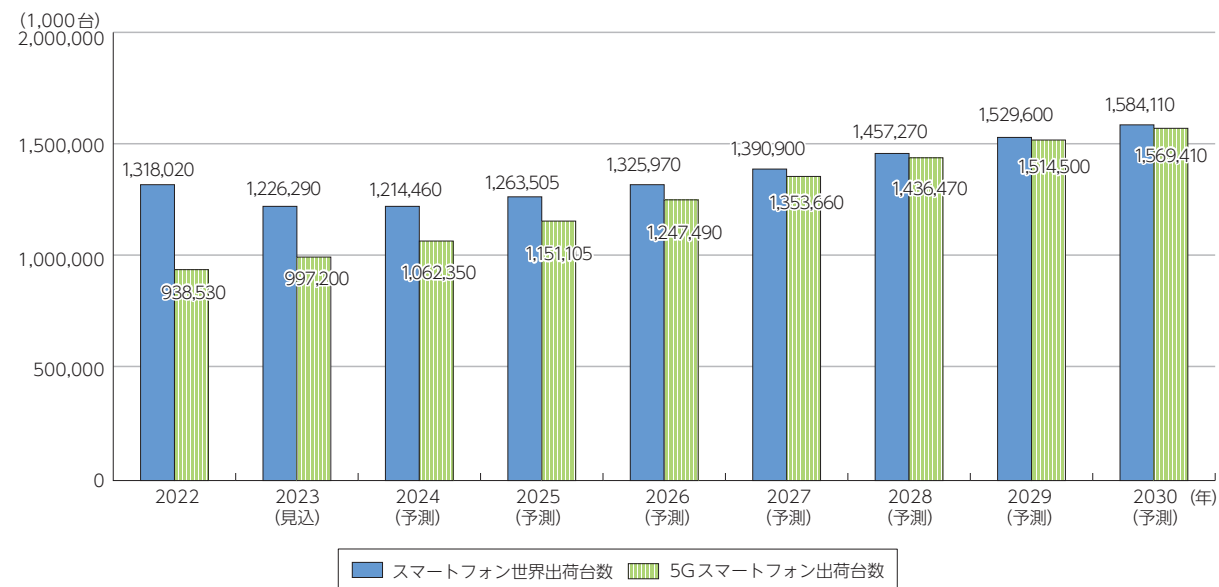
2 端末別の市場動向

ア スマートフォン (5G対応)

世界の5G対応スマートフォンの出荷台数は、今後も拡大することが見込まれ、2030年には15億6,941万台まで拡大すると予測されている（図表Ⅱ-1-5-8）。

5G対応スマートフォンの国内出荷台数は2024年度で3,040万台（前年度比21.4%増）となった（図表Ⅱ-1-5-9）。

図表Ⅱ-1-5-8 世界のスマートフォン・5Gスマートフォンの出荷台数推移と予測



※1 メーカー出荷台数ベース

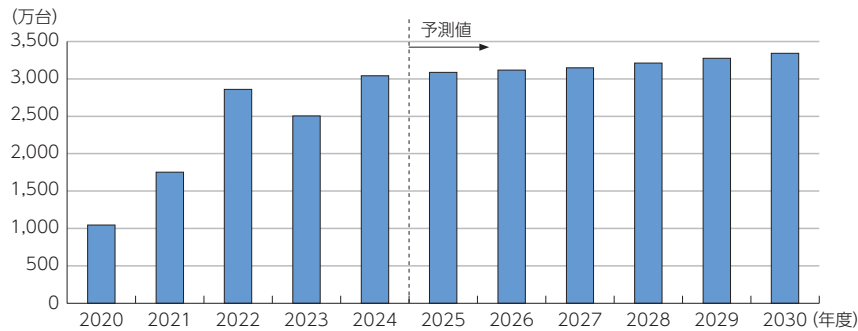
※2 5Gスマートフォン出荷台数はスマートフォン世界出荷台数の内数

※3 2023年は見込値、2024年以降は予測値

(出典) 株式会社矢野経済研究所「世界の携帯電話契約サービス数・スマートフォン出荷台数調査 (2023年)」(2024年3月27日発表)

*9 <https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/seidou/index.html>

図表Ⅱ-1-5-9 5G対応スマートフォンの国内出荷台数

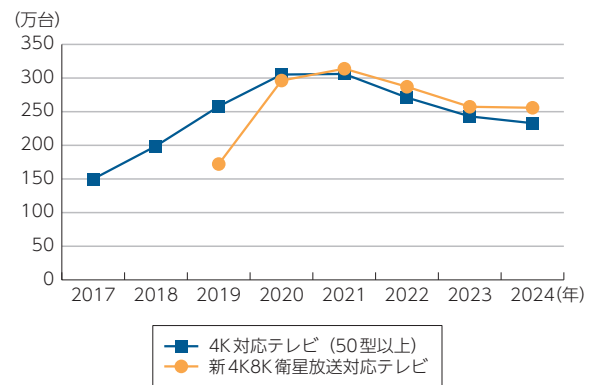


(出典) CIAJ「通信機器中期需要予測 [2025年度～2030年度]」

イ 4K・8Kテレビ

国内の4K対応テレビ(50型以上)の2024年の出荷台数は233万台(前年比4.2%減)、新4K8K衛星放送対応テレビの2024年の出荷台数は256万台(前年比0.5%減)であり、双方とも出荷台数は緩やかな減少傾向にある(図表Ⅱ-1-5-10)。

図表Ⅱ-1-5-10 日本の4K・8K対応テレビの出荷台数



(出典) JEITA「民生用電子機器国内出荷統計」

ウ VR・AR

世界のVRヘッドセットの出荷台数は、2019年以降増加していたが、2023年以降減少に転じ、2025年は480万台(前年比30.3%減)となっている。

日本におけるXR(「VR(Virtual Reality 仮想現実)」、「AR(Augmented Reality 拡張現実)」、「MR(Mixed Reality 複合現実)」)対応のHMDとARスマートグラスの出荷台数は、2024年に45.6万台だったものが2030年には87.0万台まで増加すると予測されている。

関連データ

世界のVRヘッドセットの出荷台数の推移及び予測

出典: Omdia
URL: <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/html/datashu.html#f00193> (データ集)



関連データ

日本のXRデバイス市場規模(国内出荷台数)

出典: 株式会社矢野経済研究所「国内XR(VR/AR/MR)市場に関する調査(2025年)」(2025年8月4日発表)
URL: <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/html/datashu.html#f00194> (データ集)



3 各国におけるICT機器・端末の輸出入の動向

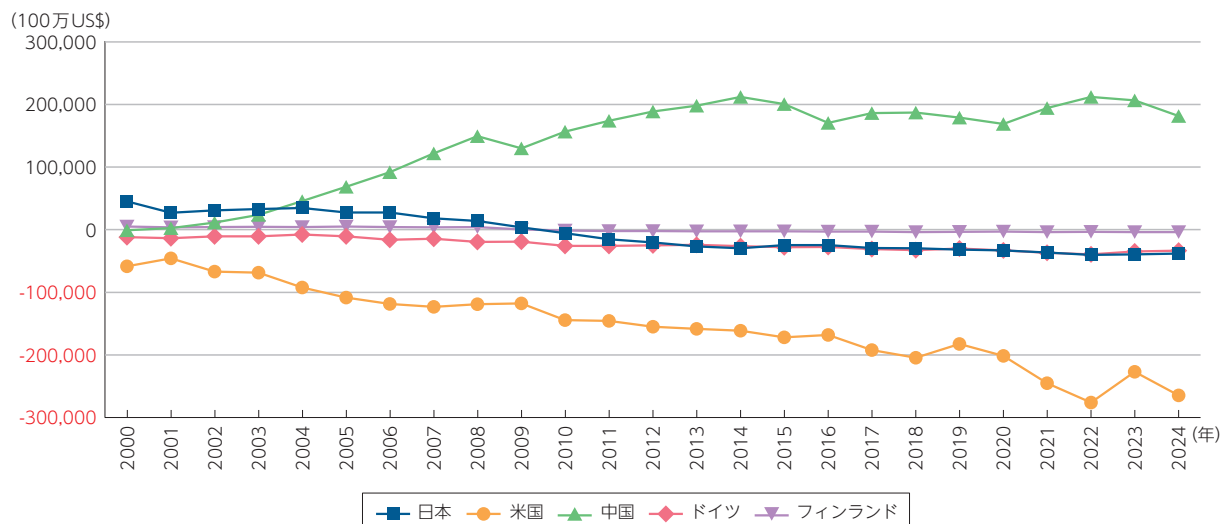
各国におけるICT機器・端末^{*10}の輸出入については、国際連合貿易開発会議(以下「UNCTAD」)「UNCTAD STAT」によると^{*11}、日本では2010年以降輸入超過が続いており、2024年は、輸出額は

*10 電子計算機、通信機、民生用電子機器、電子部品等

*11 集計対象等の違いにより、第Ⅱ部第1章第1節4「ICT分野の輸出入」に記載している財務省「貿易統計」に基づくICT財の輸出額、輸入額、輸出入額とは必ずしも額が一致しないことに留意が必要。

541億ドル（前年比1.5%減）、輸入額は920億ドル（前年比2.4%減）で、380億ドルの輸入超過（前年比3.6%減）となっている。また、2024年には、米国では2,646億ドルの輸入超過（前年比16.5%増）、中国では1,815億ドルの輸出超過（前年比12.3%減）となっている（図表Ⅱ-1-5-11）。

図表Ⅱ-1-5-11 各国のICT機器・端末の輸出超過額の推移



(出典) UNCTAD [UNCTAD STAT]*12

関連データ 各国のICT機器・端末の輸出額の推移

出典：UNCTAD [UNCTAD STAT]
URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/html/datashu.html#f00196>（データ集）



関連データ 各国のICT機器・端末の輸入額の推移

出典：UNCTAD [UNCTAD STAT]
URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/html/datashu.html#f00197>（データ集）



4 半導体*13市場の動向

世界の半導体市場（出荷額）は、2025年には941億ドル（前年比3.9%増）となった。内訳をみると、ディスクリート半導体が最も多い。2014年からの伸び率が最も高い画像センサについては日本企業（ソニーセミコンダクタソリューションズ）が52.8%のシェアを占めている。

日本の半導体市場（出荷額）は、長期的に増加傾向であり、2025年には68億ドル（前年比3.0%増）となった。内訳をみると、世界市場と同様に、ディスクリート半導体が最も多い。

関連データ 世界の半導体市場（出荷額）の推移

出典：Omdia
URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/html/datashu.html#f00198>（データ集）



関連データ 世界の画像センサ市場のシェア（2025年・出荷額）

出典：Omdia
URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/html/datashu.html#f00199>（データ集）



関連データ 日本の半導体市場（出荷額）の推移

出典：Omdia
URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/html/datashu.html#f00200>（データ集）

*12 <https://unctadstat.unctad.org/EN/Index.html>

*13 本項では、デジタルトランスフォーメーション（DX）で導入が進むIoTやAIを実装した電子機器においてキーデバイスとして位置付けられる、画像センサ、MCU、MEMSセンサ及び不可欠な電源に使われるディスクリート半導体を指す。